



邦洋楽 ヒップホップ、クラブ ご担当者様

これは遅れてきたサマー・オブ・ラヴ、もしくは遅れてきた
ウッドストックとでも謂うべきアルバム

DJ QUIETSTORM "jigajisan"

NMYK-CD09 / 2,625yen (tax in.)

STREET DATE : 2006.6.23 FRI



Distributed by CISCO INTERNATIONAL (03-3537-2933)

INFO NO. - J-03555314



Distributed by CISCO INTERNATIONAL
Supported by Soundscape

中目黒薬局Recordings

DJ QUIETSTORM / "jigajisan"

NMYK-CD09

06/23/2006 fri release

Y2,625 (w/o tax)



毎度御鼻頂にして頂きありがとうございます。
6月、DJ QUIETSTORMによるアルバム第三弾 "jigajisan" が出ます。

jiga-jisanに至るまで、人間に与えられた時間経過とはいかなるものでしょうか。

多々ある事象として、音楽の生まれる瞬間、なぜそれが生まれでたのか、産み出した本人は説明しようがないものです。この、アルバムの初スケッチがまとめられた時から、いつものごとく「この曲を、初めて聴く人間になれたらどんなにかいいだろう。」とぼやきつつ、それでも、宇宙の生ける鏡のごとく心にもいつも磨きをかけ、対峙する姿は、かつてないほど、自分自身と音楽があたかも同種のごとく見つめ合う緊張感が漂っていました。

このアルバムが出るまでに綴られた、スケッチの数々はどれをとっても、ひとつの完成でした。QUIETSTORMは、そのDJスタイルの通り、常に個々の曲の完成でなく、DJがなすべき至福の時をともなって、スタジオから席を立ちます。ドアをあけるとときには、1枚の白い CD-Rは、言葉と色落書き、DJ QUIETSTORMの銘が記載されたひとつの作品として、一杯に音が巡っています。旅行く前の者（シタルの音）の語らい、人の体に浸透させ骨を震わす息吹に、旅の空に放ち、人とともに分け合った喜と情を交流した、"jigajisan"の裡は、何度となくこの儀式を経て、身、血潮を移した存在感を増幅し素が剥き出し、明け放っていくのが感じられました。
-感謝、世界を巡っているjarvis、いつもの街で大華、沖縄でナナオさん(audio active)KOYO(ZERO)AYUMU-PAPA。

remix編集の木下さんは、「これは遅れてきたサマー・オブ・ラヴ、もしくは遅れてきたウッドストックとでも謂うべきアルバム」と称しました。実際、全曲通して多彩で、ただ熱帯びた、あの時生命ある者が感じた渦がそのまま表象された音楽群であり、あるがまま、与え与えられ分ち合う交感が表現する愛があります。お互い体感するライブこそ、DJ QUIETSTORMの真骨頂なのだから、この言葉はうれしい。

彼は、この旅の終わりに、自分は、HIPHOP DJだと断言しています。
- 自分は、ほんとうに音楽への愛を初めて知った喜びに対する衝撃と与えられる感謝にはじまり、ぼくは文化、歴史を担っている。小さな世界に自分を作ることは出来ない、この不思議に大きな宇宙を思うままに信じて行かないと、失われる何かがあるはずだ。-
このアルバムは、気持ちに偽り無い、音楽という光の放射かな。

このアルバムを聴いてみてください。聴く者自身の心の鏡には、あなた自身が映し出されるのではないのでしょうか。
自我自産、、、。

ちなみに付属の自写の写真アルバム等、ジャケットデザインイメージ、ほぼ、自らの意思でこの製品は成り立っています。
--協力感謝、世界のPAI, SYPHT

今後、言葉の上で完成された音楽のジャンルというそれぞれの枠組の中で音を発した、何枚かのMIX CDを出す予定でいます。一見多面的と思われるそれらは、どのCDをとってもQUIETSTORMの音と感じてしまう、彼の音楽観をより浮き彫りにすることになりそう。
どれもこれも、うわっ、、です。

今回、cisco exclusiveのため、事前サンプル配布が出来ません。5枚以上で試聴機用サンプルCD,POP,コメントカードが付く旨、INFOMATIONに記載されております。何かの折、機会がございましたら、是非、耳にして頂きたく、ご挨拶させて頂きました。

もし、CD等の販売を扱っている方で、オーダーをご希望される方がおりましたら下記にご連絡ください。

また質問等、ありましたら御連絡をください。
今後ともよろしくお願い致します。



EXCLUSIVE DISTRIBUTION INFORMATION
Distributed by CISCO INTERNATIONAL



DJ QUIETSTORM profile ...



-----DJクワイエットストーム。-----前作『Soramiro』までの詳細なプロフィールはシスコのホームページ (www.cisco-records.co.jp/docs/ciscostyle/dj_quietstorm/) に譲るが、「15年間日本に住んでるから、ある意味アメリカのことはさっぱりわからない(笑)」という彼は、69年にアメリカはアリゾナ州で生まれ、その後6歳から10歳までをブラジルで過ごし、中3からは東京がいくつ目の故郷となっている。当時、同級生と通った渋谷のディスコ(ニューヨーク・ニューヨーク)にて、ハービー・ハンコックの“ロック・イット”やエレクトロな感じでひとしきり踊ったあと、渋谷のジャズバー(ディード)にふらりと立ち寄っては、ジン・トニックを飲みながらコルトレーンを聴いていたという中学3年生は、ほどなくして音楽を聴く側から聴かせる側にまわることになる。イリノイ大学に進学、80年代後半にアメリカに戻ったクワイエットストームは、ハウス黎明期のイリノイ州シカゴでDJのキャリアを積み始める(ハウスDJの“くわたとむ”が当時のシカゴ・ハウスばかりをまわすのも、つまりはそういうことなのです)。そして、90年代前半に再び日本に戻ってきた彼は、ちょうどアシッド・ジャズで盛り上がっていた東京のクラブ・シーンに加わり、UFOの矢部直、DJクラッシュらと同じ現場でレコードをまわし始める。その後も、ミックスCD/テープでリリースした『Quiet On

The Set』シリーズの7枚をはじめ、99年にはじめて共演して以来、DJケンセイとも度々ターンテーブルでセッションしたり、DJヤスとはじめたパーティTIGHT(タイト)は今年で8周年を迎えようとしている。クワイエットストームのDJのキャリアも20年にもなるわけで、しかもおそらく、彼のDJはいまがもっとも刺激的である。「高校生ぐらいから、この曲をこう混ぜてこうかけられたらなとかって想像しても、もちろんアナログはいじれないから、そのままかけてた。たとえばラップをワンパス入れて、でもそっからインストになって、その瞬間スクラッチをかましたいとか。だけど実際はあと3パスあったりして、ブースで2、3分間黙らなきゃいけない。お客さんも待たせなきゃいけない。いままで、ミックステープやミックスCDではそれをPro Toolsでエディットしてから表現してただけで、CDJを使うようになって、それを人前でやれるようになった。(ヌマーク)のターンテーブルのおかげ(笑)」彼はカリフォルニアを拠点とするジブシー・ヒップホップ集団リヴィング・レジェンズの日本支部を任されているが、彼らとの出会いがきっかけで上げた(中目黒薬局)から、ミックス・テープやミックスCDをかなりの数出している。近作は、2005年の夏に出た『Live At The Liquid Room, Tokyo, Japan Dec.12, - Between You And Me』と『DJ Quietstorm 100% Live - August 2004 Nakameguro Rock Festival』で、このライブ・ミックスCDを聴けば、あなたがあの日の現場に居合わせていなかったとしても、そのDJがどれだけ素晴らしかったかがわかるはずだ。

しかし、すべてのDJが、人前でうまくレコードをかけられるからいい曲が作れるわけではない。が、クワイエットストームは、よきDJであり、よき音楽家でもある。2001年9月にリリースしたファースト『Damare』は、「いま考えてみると、ほんとに何も考えてなかったなって(笑)。まあ、かっこいいのを作りたいとか、それだけ。あと1発目だからラッパーとじゃなくて、すべてひとりで作ったってのもある。それはデビュー前の、自分だけの世界観を残したかった」というアルバムで、「それができたから、ラップのアルバムを作りたい」と思い、04年にはセカンド・アルバム『Soramiro』を完成させている。国内外の個性派ラッパーたちと、クワイエットストームのユニークなバックトラックとのコンビネーションは実に鮮やかで、それは、たとえばDJスクリュエバりにピッチを落としたローボート・エレクトロの上で、ツイギーのナンセンスでフリーキーなラップが炸裂する“Be Quiet”などで証明されている。近々日本のヒップホップ史を総括する機会がきたときには、僕はこのセカンドをいくつかの推薦すべきアルバムのひとつに挙げようと思っている。

そして再び、最新作『Jigajisan』はインスト・アルバムになっている。「『Soramiro』でラップのアルバムをやききって、あいつらジャマだと(笑)。自分ひとりのほうがかっこいいって(笑)」というのは半分冗談だが、このアルバムは『Jigajisan』と名づけられている。これは遅れてきたサマー・オブ・ラヴ、もしくは遅れてきたウッドストックとも言うべきアルバムで、“Mangekyo”、“Hikari”、“The Heavens In My Blood”、“The Summer Of Seventy-six”、“The Heavens -A Godly Ting”なんてタイトルの、サイケなインストが12曲聴ける。「サイケの時代、68、9年とか、サマー・オブ・ラヴと呼ばれていた時代にサンフランシスコにいたら面白かっただろうなと思うんだけど、まだ自分は人生の1年目だったから。でも大学生のときとくに、みんなアシッドとかサイケの文化に興味を持つでしょ。自分もそうだった。78、9年のブルックリンとかもそうだったと思うけど、振り返ってみても、その時代の地球のいちばん面白い場所になってたんじゃないかな。若者文化のつべんのひとつの瞬間だったと思う。(ウッドストック)でサンタナを生で見たかったとかね(笑)」

また以前、クワイエットストームはラモスや小錦ぐらいにならないと選挙権が一生もえられないこの国の体制を批判していたし、渋谷のとあるヒップホップ・クラブが外国人客を排斥したときに、まっさきに異議を唱えたのも彼だった。「日本は、白人でも黒人でも茶色い人も外国人とされる」とも言っていたが、マイノリティとして10年以上もこの国で過ごしていることが、『Damare』や『Soramiro』というアルバム・タイトルを彼につけさせたのかもしれない。それに、自分のルーツとは違う、黒人の音楽をずっと愛してきたという意味で、音楽的に彼はディアスポラであったともいえるだろう。「おじいちゃんもともとチェコの人で、1920年代にシカゴに渡った。俺はどう見ても白人だし、もちろん自分のDNAのルーツは白人なんだけど、80年代からずっとブラック・ミュージックにしか興味がなかった。でもつい最近、この4、5年の話なんだけど、白人もかっこいいところがあるんだって、やっと自分のルーツを認めはじめたんだよね。まあ白人の文化はずるいから(笑)、それまではずっと無視してただけ。だからオールマン・ブラザーズだとかグレイトフル・デッドだとかを聴いてかっこいいなと思ったのは、ほんと最近の話。そのきっかけ? 『Soramiro』を出す前ぐらいに(フジ・ロック)に遊びに行ったんだよね。そこでいままであまり耳にしなかった音楽とお客さんを見てね。ヒップホップはスティックで、ひとつスネアを抜いたとかで盛り上がる。それまではそれぐらいの枠の中でやってただけで、もっとド派手な感じだった。ブルース、ジャズ、ファンク、ヒップホップとかをガキの頃からずっと聴いてきたんだけど、(フジ・ロック)のステージで見た音楽は、そういう、またちょっと違った味があったんだよね。それが白人のものだった」

その初体験のあと、(フジ・ロック)にも出演している、もしくはフィッシュがはじめて来日したときに前座をつとめている日本のジャム・バンド、ビッグ・フロッグのアルバムやライブにスクラッチで参加し、客を盛り上げたのも、もうひとつの大きな転機になったという。ちなみにそのライブでは、KRS・ワンのラップやトゥー・ショート「ピヤッチ!」なんかをスクラッチしたそうだが、それに象徴されているように、誤解を恐れずに言わせてもらうと、クワイエットストームは自分の音楽がヒップホップであることにこだわり続けている。

「かつてのヒップホップは何よりもでっかいくりで、すべての音楽、ファンクからロックからクラシックまで、かっこいい瞬間があればそれを盗んで、さらにかっこよくして出していた。だからなんでもかける自分はヒップホップのDJなんだって言い続けたいと、ヒップホップに失礼だと思うし。でもいまヒップホップがわかりやすい感じになってきて、逆にちょっと違うことをやっていると、『それはヒップホップじゃない』とか言われてしまう。だけどそう言い出すと、10年後、20年後にヒップホップをかっこよくやっている人はひとりも残らないでしょ。だから、わかりにくいかもしれないけど、あえてヒップホップをやっていると続けたい。

『Jigajisan』もハードコア・ヒップホップのアルバムだって(笑)」

それと最後に、この拙文では真面目に語ってもらっているが、会ってみるとクワイエットストームはなかなかユーモラスな男でもある。もしそのユーモアを知りたいなら、レジェンズのマーズ、ラッキーアイアムPSC、ベーシックMCをフィーチャーした“Jebidiah”の12インチのジャケットを見てみてほしい。あ、思い出さずだけで口元が……。

木下 充 (remix編集部)

EXCLUSIVE DISTRIBUTION INFORMATION
Distributed by **CISCO INTERNATIONAL**



about 「jigajisan」 ...



★DISC DATA★

ARTIST : DJ QUIETSTORM
TITLE : jigajisan
LABEL : 中目黒薬局
CAT. NO. : NMYK-CD09
BARCODE : 454571000
FILE UNDER : HIPHOP, CLUB
FORMAT : CD (アルバム)
店頭価格 : ¥2,500 (税抜)、¥2,625 (税込)
卸価格 : ¥ (税抜)
RELEASE : 2006. 6. 23. FRI

DJ QUIETSTORMの約2年ぶりとなる通算3枚目のアルバムは、『Jigajisan』と名付けられた。今作は、前作のラッパー参加によるラップ・アルバム『Soramiro』から一転し、インスト・アルバムである。そして、『Jigajisan』にはこれまでにない彼の魅力が詰まっている。それは何か？今作はサイケデリック・ロックの要素を大いに取り入れているのだ。では、今作はロック・アルバムなのか？答えは、NOだ。それはDJ QUIETSTORMが生粋のB-BOYだからだ。DJ QUIETSTORMは今作でサイケデリック・ロックの持つ恍惚感、そして浮遊感をヒップホップのフォーマットの中で再現することに成功しているのだ。彼は頑なにヒップホップへのこだわりを見せる。すなわち今作は、多くの音楽体験をしてきた人として成熟してきたB-BOYによる大人のヒップホップアルバム、と言える。このアルバムが真の意味でのヒップホップアルバムであることは、ヒップホップを愛する人ならば感じてもらえるはずなのだ。更に今回はラッパーではなく、多くの演奏者も参加している。七尾茂大(ドラムスAUDIO ACTIVE)、KOYO(サックス、ZERO)、JARVIS(シタール)、AYUMU-PAPA(ジャンベ)、大華(ヒューマンビートボックス、MSC)

★TRACK LISTING★

1. A Quick Introduction
2. When i Get Up On Stage
3. Mangekyo
4. Hikari
5. Hardcore Beat
6. The Heavens - In My Blood
7. The Summer Of Seventy-Six
8. Cheek Time
9. Playing Solitaire
10. Music in Everything
11. The Heavens - A Godly Ting
12. Interlude

- ・ 5枚以上で試聴機用サンプルCD、POP、コメントカードを差し上げます。
- ・ 拡売していただける店舗様も募集しております。担当セールスに御相談下さい。

DJ QUIETSTORM 関連商品



DJ QUIETSTORM
"DAMARE"
NMYK-CD03
2,625yen (tax in.)
NOW ON SALE

←
自身のオリジナルな世界観であらゆる角度からヒップホップの楽しさを伝えてきたDJ QUIETSTORMが遂に発表した記念すべきデビュー作！全てインストゥルメンタルで構成された傑作アルバム！

枚



DJ QUIETSTORM
"SORAMIRO"
NMYK-CD05
2,940yen (tax in.)
NOW ON SALE

←
1stアルバム"Damare"から3年を経て発表された2ndアルバム。前作のインストゥルメンタル中心とは違い、国内外から多くの盟友達との強力コラボレートが中心で、Ill-Bostino, Twigy, Eligh等、超豪華ゲスト陣を迎えた傑作アルバム！

枚



DJ QUIETSTORM
"SORAMIRO
INSTRUMENTAL"
NMYK-CD06
2,100yen (tax in.)
NOW ON SALE

←
超豪華メンツをフィーチャーしリリース、大好評を得た2ndアルバム"Soramiro"のフルインストバージョン！DJプレイを裏付けるような幅広いネタ選と曲の作りこみの完成度の高いアルバム！

枚

Order sheet (NMYKCD-09) / 2006. 5. 15. MON

貴店名 _____

御担当者さま _____

TEL / FAX _____

E-MAIL _____

枚

★オーダーはFAXにてお願いいたします。

(株) シスコインターナショナル